

“医療情報”から“医療・介護情報”へ！

ー長崎市立図書館の取り組みー

西岡由乃
長崎市立図書館

公共図書館；医療情報；介護；在宅医療

1. 目的

現在、日本の高齢者数は増加の一途をたどり、2042年にピークを迎えると推測されている。それに伴い、厚生労働省では在宅医療・介護の推進が行われており、できる限り住み慣れた家庭や地域で療養できるように様々な政策を講じている。

この現状は長崎市にも該当する。長崎市立図書館では、2011年より医療情報のなかでも、がんに特化した「がん情報サービス」を提供、2013年より「家族介護者支援サービス」を開始した。介護に関する情報は市民からの問い合わせも多いため、医療情報を提供する延長線上で介護の情報提供にも力を入れることを考えた。

2. 実施内容

- ①介護生活応援コーナーの設置
- ②イベントの実施・関連展示の実施（テーマ：認知症、ストレスマネジメント）
- ③館外広報

長崎県福祉保健部医療政策課主催の在宅医療の講演会にて、看護師や医師、薬剤師などの団体に混ざり、図書館のブースを設けていただいた。ブースでは介護生活応援コーナーのPRや図書館で実施するイベント情報などを提供した。

- ④在宅医療に関する研修会への参加

長崎市内の在宅医療事情について、地域の情報を得る機会を設けた。参加した研修会では、在宅医による講演や医療社会福祉士・看護師・在宅医・ケアマネージャー・医師会理事によるシンポジウムが行われた。

3. 結論

先に述べた社会的な背景からも、これまで以上に在宅医療や介護に関わる市民が増え、それに伴い情報を求める人も増えていくと予測できる。図書分類法上では3類に介護、4類に医療と分かれているが、これは図書館の中の話であり、当然ながら市民にそのような区別はない。市民が求める情報を市民自らがとり着けるような仕組みにするためにも、医療と介護はセットで情報提供することが望ましいと考える。